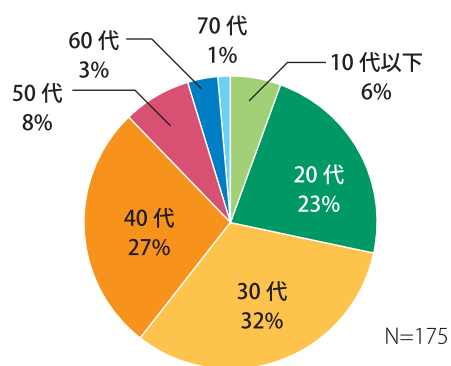


アンケート結果

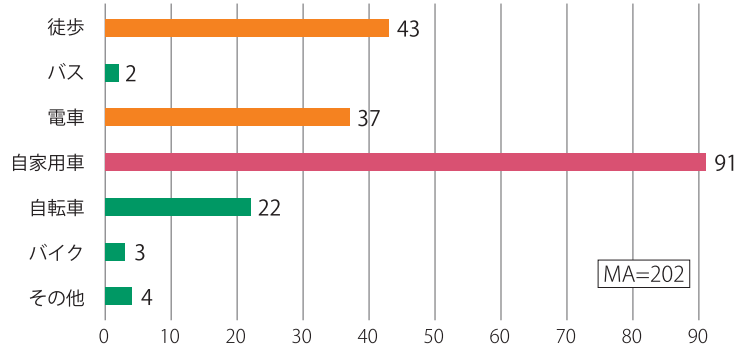
今年度の「シエキノカワでピクニック。」の来場者数は、昨年度の倍以上となる延べ649名でした。そのうち177名の方々にアンケートにご回答いただきました。結果の一部をご紹介します。

Q. 回答者の年齢



今年は昨年よりも若者や子育て層の家族連れが多く見られ、アンケートにおいても回答者の9割近くを40代以下が占める結果となりました。

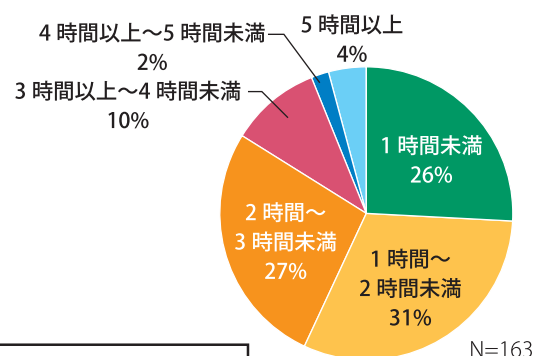
Q. 今日どの交通手段を使って来られましたか？ (複数回答)



今年も公共交通機関と徒歩による来場を呼びかけましたが、昨年と同じく自家用車が最多となりました。一方で会場に直接乗り入れる車は少なく、徒歩と電車の割合は昨年より増えました。

Q. 滞在時間はどのくらいでしたか？

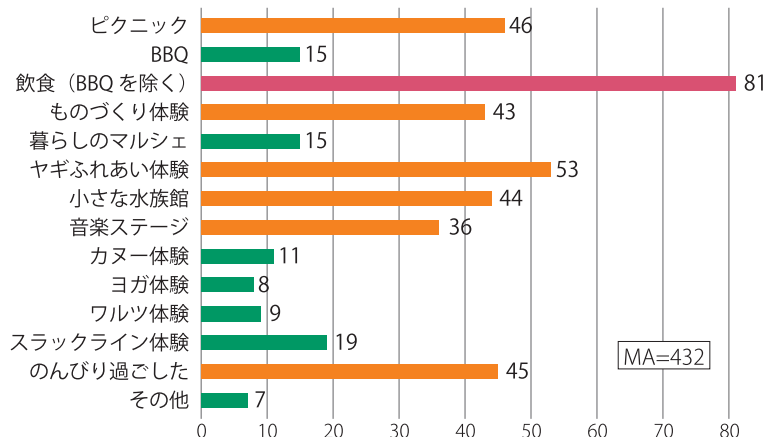
※滞在中の場合は予定時間を回答。



平均滞在時間：102分

平均滞在時間は昨年より18分長くなりました。体験コンテンツや飲食店が増えたことで、多くの方々にゆったり時間を過ごして頂けたと考えられます。

Q. 会場でどのように過ごしましたか？ (複数回答)

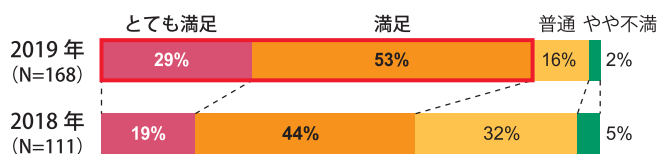


今年は「飲食」が最も多く、次いで「ヤギふれあい体験」、昨年は少なかった「ピクニック」が3位となった他、多様なコンテンツを楽しんでいただけたことが窺える結果となりました。

全体の満足度は、前回は「満足」と「とても満足」あわせて6割強だったのに対し、今回は8割以上となり、大きく向上しました。エリア面積の拡大やコンテンツの充実による効果が窺えます。

※全てのアンケート結果は市駅 GGP ホームページで公開しています。
▶ <https://shiekiqqp.wixsite.com/wakayama-ggp>

Q. 全体の満足度について



市駅 GGP 2019 関係者・協力者一覧

(敬称略・順不同)

- ▶主催：市駅「グリーングリーン」プロジェクト 2019実行委員会
- ▶共催：一般社団法人 市駅グリーンプロジェクト、市駅まちづくり実行会議（和歌山市駅前地区商店街連盟・城北地区7自治会・和歌山大学観光学部永瀬研究室）
- ▶企画：一般社団法人市駅グリーンプロジェクト、和歌山大学観光学部永瀬研究室
- ▶協賛：株式会社タカショー、山陽製紙株式会社
- ▶後援：国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所、和歌山県、和歌山市、和歌山市教育委員会、和歌山商工会議所、和歌山県観光連盟、一般社団法人和歌山市観光協会、南海電気鉄道株式会社、和歌山バス株式会社
- ▶協力：城北地区連合自治会、雄湊地区連合自治会、本町地区連合自治会、和歌山市立伏虎義務教育学校友会、孫子の会、和歌山市駅前中央商栄会、有限会社福島商店、株式会社峯、わかやま農業協同組合、まちなか百姓養成塾、株式会社星田建設、池内興業合同会社、NPO法人和歌浦湾海業、株式会社メガチューブ、株式会社コトブキ、株式会社世界一統、和歌山大学観光学部、和歌山大学COC+推進室、Wadai Creators Tio、竹中工務店・南海辰村建設・浅川組建設工事共同企業体、和歌山市都市再生課、和歌山市企業局
- ▶企画・出店協力：和歌山大学ジャズ研究会UncleJam、和歌山大学アカベラサークル和音、和歌山大学吹奏楽団、+39、CelebITEA、CUPS、株式会社玉林園、SANDOYA、まちなか百姓養成塾、和歌山大学広川町LIP、和歌山大学棚田ふあむliliptiense、CCC和歌山プロジェクト、本屋プラグ、In fact builders、R100、エディーカヌースクール、蓮舞ヨガスタジオ、海友会、ダイヤダンス教室、NPO法人にここのうえん

「シエキノカワでピクニック。」当日は、他にも多くのボランティアスタッフや地域の方々にご協力いただきました。ご支援ありがとうございました。

編集後記

今年度は昨年より規模を広げ、演出にもこだわり、新たな企画も試みましたが、地域の方々の熱い思いが届き、無事に社会実験を実施することができました。関係者並びにご協力いただいた全ての皆様に、心より御礼申し上げます。来年は和歌山市駅の再開発が完成し、社会実験も新たな段階を検討する時期ではないかと思っています。今後とも市駅周辺のまちが持つ可能性に期待したいと思います。

和歌山大学観光学部永瀬研究室
3年生 豊田さゆり

市駅まちづくり通信 14

市駅「グリーングリーン」プロジェクト 2019

第14号 2019.12.20 発行：市駅まちづくり実行会議 編集：和歌山大学観光学部永瀬研究室



2年目の《シエキノカワでピクニック。》開催！

今年度の社会実験「市駅「グリーングリーン」プロジェクト」は、「市駅近くの紀の川河川敷の可能性を発信する」という昨年からのテーマを引き継ぎ、10月22日（火・祝）に「シエキノカワでピクニック。」を実施しました。台風20号の影響で前日まで雨が降り続き、一部にはぬかるみも残りましたが、地域の関係者の思いが届いたかのように当日は晴れ間が広がり、紀の川第5緑地に設けた「シエキノカワひろば」には県内外から600人以上の方々にご来場いただくことができました。

昨年度は、メイン企画の「ピクニック」を体験した実感が乏しい来場者が多かったことが、アンケート結果から分かりました。そこで今年度は、①河川敷でのピクニックを存分に楽しんでもらうこと、②若い年代にも興味を持ってもらうことを重視し、新たにティピーテントやガーランド、共通のサインやゲートの設置など、おしゃれで統一感のある雰囲気づくりを行いました。面積も広げ、各エリアのコンテンツを充実させた結果、当日は若い世代を中心にさまざまな世代が思い思いに時間を過ごし、ピクニックの様子を写真に撮る姿が多く見られました。



これまでの社会実験について

社会実験「市駅「グリーングリーン」プロジェクト」では、2015年から2017年までは市駅前通りを歩行者天国化し、「緑と憩いの広場」にする社会実験、2018年からは市駅北側を流れる紀の川に着目し、河川敷の活用による潤いと賑わいづくりの可能性を検証する「シエキノカワでピクニック。」に取り組んでいます。

今年も10/14に会場となる河川敷の草刈り、清掃を行いました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました！

（一社）市駅 GGP が都市再生推進法人に指定されました！

2018年7月に市駅地区のエリアマネジメントを推進する組織として設立された「一般社団法人市駅グリーンプロジェクト」は、本年6月に和歌山市から都市再生推進法人に指定され、行政と連携しながらまちづくりに取り組む組織として、公的に位置づけられました。今年度の社会実験も同法人の取り組みの一環として実施しています。

ピクニックエリア

紀の川を目の前に眺められるよう設けられたピクニックエリアでは、ピクニックラグを敷きピクニックを楽しむ親子連れ、ティピーテントやハンモック、デッキチェアを利用して多くの人々が思い思いに時間を過ごす姿が見られました。「ヤギとのふれあい体験」や「小さな水族館」では、普段あまり体験できない生き物との触れ合いは子供たちに大人気でした。今年は新たな試みとして、手軽におしゃれなピクニックを楽しんでもらえるよう、山陽製紙のご協賛により、同社のピクニックラグ CREP の無料貸し出しを行いました。お昼時には用意したラグが全て貸し出され、参加者には大変好評でした。



フード・BBQ

今年は和歌山市内の人気飲食店にご協力いただき、ピクニックにぴったりのフード・ドリンクを販売するカフェテリアと、和歌山県産野菜等の販売者によるファーマーズマーケットを設けました。また昨年に引き続き、普段は規制されている河川敷でのBBQ体験を企画したところ、今年は大好評でほぼ満席となりました。河川敷の新たな魅力に気づく体験になったのではないのでしょうか。



アクティビティ

昨年も好評だった紀の川でのカヌー体験と、近年話題の新感覚スポーツ、スラックライン体験を実施しました。カヌー体験は2人1組のペアで15組の方にご参加いただき、スラックラインは多くの子どもたちが何度も繰り返し体験する姿が見られました。河川敷でアクティビティの仕掛けを用意することで、大人から子供まで、家族で楽しめる場となる可能性が期待できます。



紀の川

市駅「グリーングリーン」プロジェクト 2019
市駅とまちと紀の川の可能性を体感する社会実験
シエキノカワでピクニック。



ピクニック

- P1** 芝生のくつろぎスペース
：ティピーテント、ハンモック等を開放
- P2** 水辺のステージ
◆ヨガ体験【11:00～11:45】
◆音楽ステージ【13:00～15:00】
①和歌山大学ジャズ研究会 Uncle Jam
②和歌山大学アカペラサークル和音
③和歌山大学吹奏楽団
◆芝生でワルツ体験【15:00～16:00】
運営：ダイヤダンス教室・海友会
- P3** ピクニックラグ展示・販売
出店：山陽製紙株式会社
- P4** スラックライン体験
運営：和歌山大学学生有志
- P5** 青空ライブラリー
運営：めぐみと森のようちえん・たねはな文庫
- P6** ヤギふれあい体験
協力：にこにこのうえん
- P7** 小さな水族館 (紀の川の魚の水槽展示)
運営：国土交通省和歌山河川国道事務所
- P8** カヌー体験 (事前予約制・ペア限定)
運営：エディーカヌースクール



フード・BBQ

- 【カフェテリア】**
- F1** 和歌山市駅前中央商栄会
- F2** CUPS -coffee & cupcakes-
- F3** SANDOYA
- F4** +39 CAFE & BAR
- F5** CelebiTEA
- F6** 玉林園
- 【ファーマーズマーケット】**
- F7** まちなか百姓養成塾
- F8** 和歌山大学広川町 LIP
- F9** 和歌山大学棚田ふあむ

暮らしのマルシェ

- 【インテリア・雑貨の展示販売】**
- K1** In fact builders
- K2** R100
- K3** 本屋 PLUG
- ものづくり体験**
- M1** シャボン玉づくり
運営：和歌山大学広川町 LIP・和歌山大学永瀬研究室
- M2** スワッグづくり
運営：liliputiense
- M3** 絵本づくり
運営：CCC 和歌山プロジェクト

ものづくり体験

暮らしのマルシェ

ドライフラワーを使ったスワッグづくりやオリジナル絵本づくり、色々な形の針金でつくるおもしろしゃぼん玉づくりが体験できる「ものづくり体験」に加え、今年は「暮らしのマルシェ」として、アウトドア関連グッズの展示販売や最新の AI システム体験、本の販売などの出店者にもご協力いただきました。



入場ゲート

今年は会場演出の一つとして、和歌山大学 DIY サークル Tio の協力により、シエキノカワひろばの入場ゲートを設置しました。カラフルなクレープ紙で作った風車が川風によって回り、河川敷の広場へと来場者をいざないました。



ステージ

川を背景に設けられたステージでは、和歌山大学の3団体 (ジャズ研究会 uncle jam、アカペラサークル和音、吹奏楽団) による素敵な演奏でピクニックを盛り上げていただきました。また、昨年も好評だったヨガ体験に加え、今年は芝生でのワルツ体験も実施し、水辺での非日常体験を多くの参加者に楽しんでいただきました。



連携企画

市駅・まちなか まちぐるみミュージアム 2019

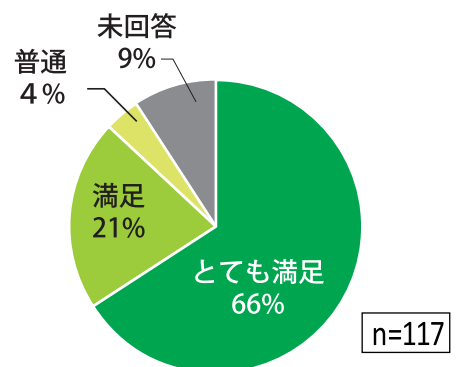
市駅周辺の店舗や公共施設等で特別なプログラムを提供する「市駅・まちなかまちぐるみミュージアム 2019」は、今年も多くの関係者の協力により、25の多彩なプログラムが企画されました。今年から社会実験としてではなく、(一社)市駅グリーングリーンプロジェクトの地域活性化事業として実施しました。また、新たな取り組みとして「銭湯での落語会」や「古民家での火縄銃や鎧体験とお抹茶体験」など複数の主催者による合同企画も実施しました。

さらに今年まちなかを回遊する流れを作る社会実験「IN THE LOOP」とも連携し、映画祭関連プログラムを企画するなど、市駅周辺の地域資源の新たな魅力と可能性の発信を試みました。残念ながら、台風の影響で連携イベントの多くが延期となり、まちぐるみミュージアムのプログラムも一部中止や延期となりましたが、開催したプログラムでは昨年を大幅に上回る方から「満足した」との声をいただくことができました。

今後はより多くの方々にご来場いただくための広報面の工夫が課題です。



参加したプログラムの満足度



【実施期間】10月12日(土)・13日(日)

- ・参加プログラム数 25件
- ・来場・参加者総数 206名
- ・アンケート回収数 117名